

資料1

第3期奈良県食育推進計画の 評価と課題及び対策について

基本方針1 健康づくりを推進するための食育

- 施策1 減塩対策の充実
- 施策2 野菜摂取量の増加に向けた取組の充実
- 施策3 バランスの良い食生活の実践支援
- 施策4 生活習慣病の発症・重症化予防のための食生活改善支援
- 施策5 高齢者の低栄養予防の充実
- 施策6 妊産婦・乳幼児の栄養指導の充実



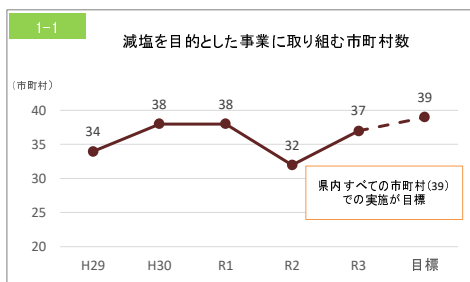
指標の状況

A: 目標達成しているまたは改善傾向にある B: ほとんど変化していない C: 悪くなっている

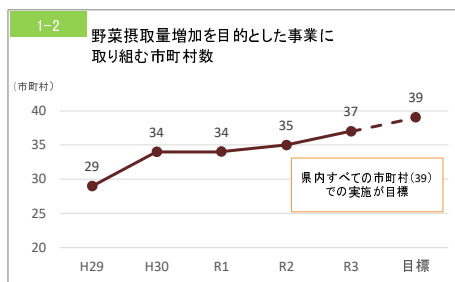
| 項目 | 目標値 | 策定時 | 直近値 | 評価* |
|--|--------------------|--------------------|------------------------------|--------|
| 1-1 減塩を目的とした事業に取り組む市町村数 | 39市町村 | 34市町村 | 37市町村 (R3) | A |
| 1-2 野菜摂取量増加を目的とした事業に取り組む市町村数 | 39市町村 | 29市町村 | 37市町村 (R3) | A |
| 1-3 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合 | 70%以上 | 47.6% | 42.4% (R3) | C |
| 1-4 肥満者(BMI25以上)の割合(20~60歳代・男性/40~60歳代・女性) | 男性26.0% 女性14.0% | 男性30.1% 女性18.2% | 男性31.6% (R3) 女性17.0% (R3) | C A |
| 1-5 糖尿病有病者の割合(50歳代) | 現状維持 | 男性8.2% 女性3.1% | 男性9.0% (R2) 女性2.9% (R2) | C A |
| 1-6 血圧要治療者の割合(50歳代) | 男性23.2% 女性14.6% | 男性25.8% 女性16.2% | 男性24.4% (R1) 女性14.4% (R1) | A A |
| 1-7 生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている人の割合 | 男性9.5% 女性4.9% | 男性10.5% 女性6.8% | 男性13.0% (R3) 女性7.8% (R3) | C C |
| 1-8 低栄養傾向(BMI20以下)の高齢者の割合 | 21.2% | 22% | 18.5% (R3) | A |
| 1-9 5歳児の肥満傾向児の割合 | 減少 | 男子2.09% 女子1.04% | 男子3.60% (R2) 女子3.41% (R2) | C C |
| 1-10 妊婦に対する歯科口腔保健指導等の実施市町村数 | 36市町村 | 32市町村 | 31市町村 (H30) | C |

指標の推移

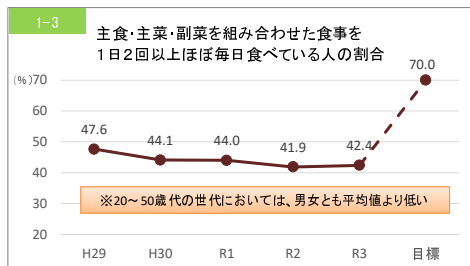
A:7項目 B:0項目 C:8項目
*策定時の値と直近値を評価しています。



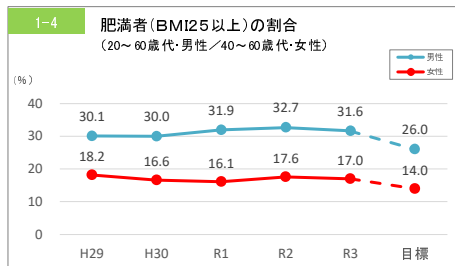
出典:健康推進課調べ



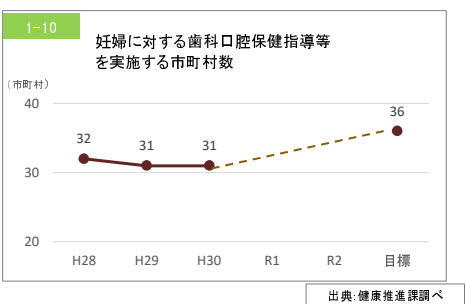
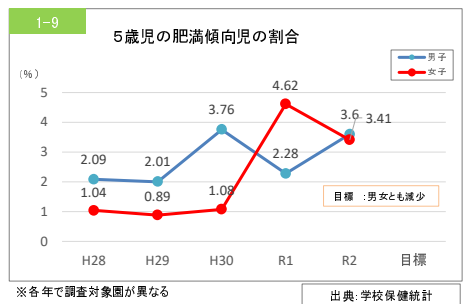
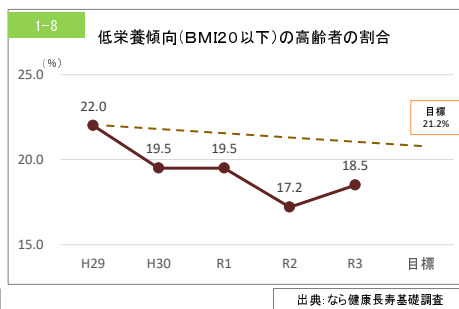
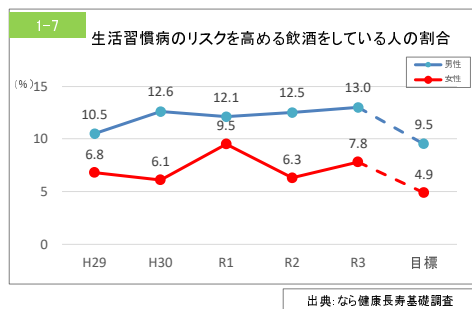
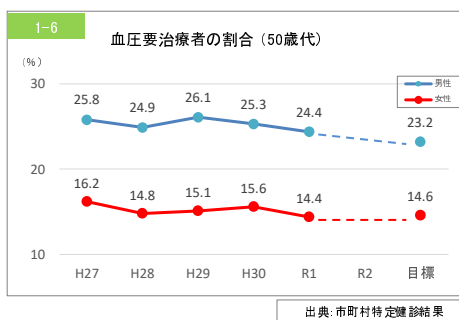
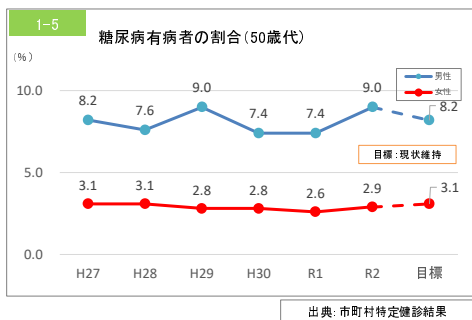
出典:健康推進課調べ



出典:なら健康長寿基礎調査



出典:なら健康長寿基礎調査



評価

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人の割合や生活習慣病のリスクを高める飲酒をする人、肥満や糖尿病の割合、5歳児の肥満傾向児の割合については改善傾向がみられない。また、「減塩」や「野菜摂取」に関する取組が、すべての市町村で実施できていない。

課題及び対策

令和3年度に実施した県民健康・食生活実態調査の結果も踏まえ、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をする人」の割合が低い世代(20~50歳代)に対して、重点的に食生活改善に関する普及啓発を行うこと、また、適切な食生活が継続できるための環境整備を図るため、市町村や職域等の関係機関や団体、民間事業者等と目的を共有し、取組を実施することが必要。

特に、市町村に対して、「減塩」や「野菜摂取」に関する取組等が適切に実施できるよう、市町村ごとの健康課題や実施体制等を検証したうえで、助言指導を行うことが必要。

令和4年度の主な取組

| 事業名 | 取組の内容 | 担当課 |
|---------------------|---|------------|
| やさしおベジ増しプロジェクト | 令和元年度に開始。スーパーマーケット等と連携協働して中食(そう菜やお弁当)の減塩と野菜増量に取り組むことにより、自然に健康になれる食環境を整備する。 | 健康推進課 |
| やさしおベジ増し宣言 | 県民ひとり一人が健康的な食習慣を実践できるよう、主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上とることを基本に身体にやさしい塩加減で野菜を増した食生活を実践することを「やさしおベジ増し宣言」と名付けて県内全域に普及啓発を行う。 ＜参考資料2＞ やさしおベジ増し宣言のロゴマークを県内共通ツールとして、市町村及び関係機関に活用を依頼 ＜参考資料3＞ | 健康推進課 |
| 食育月間イベント | 食育月間である6月に、商業施設が実施する食イベントにおいて「やさしおベジ増し宣言」を啓発 | 健康推進課 |
| 減塩ツールのデジタル化 | 減塩紙芝居のDVD動画を作成する。 | 健康推進課 |
| 配食を通じた地域高齢者等の健康支援事業 | 適切に栄養管理され利用者の状況やニーズにあった食事(弁当)が提供できる事業者を増やすことを目的に、県内の弁当事業者等が作る弁当の内容等に関する実態調査を、奈良県栄養士会に委託して行う。 | 健康推進課 |
| 県民健康・食生活実態調査の詳細分析 | 令和3年度に実施した左記調査について詳細を分析する。 | 健康推進課 |
| 保健所による市町村支援 他 | 市町村の「健康増進計画」「食育推進計画」等の評価や取組支援、地区診断等を実施する。 | 健康推進課・各保健所 |

基本方針2 次世代の健全な食習慣形成のための食育

- 施策1 保育所（園）・幼稚園等における「食」に関する体験の推進
- 施策2 小・中・高等学校における食育の指導・体制の充実
- 施策3 学校給食を活かした食育の推進



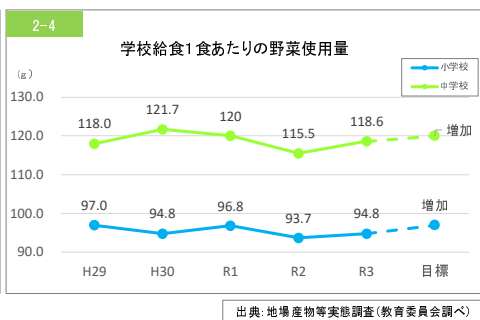
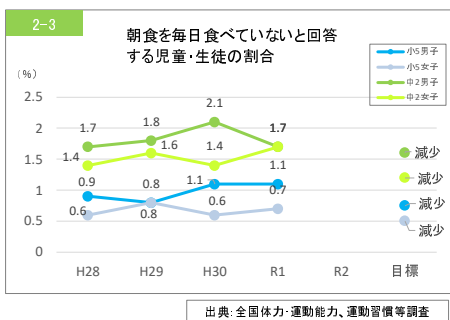
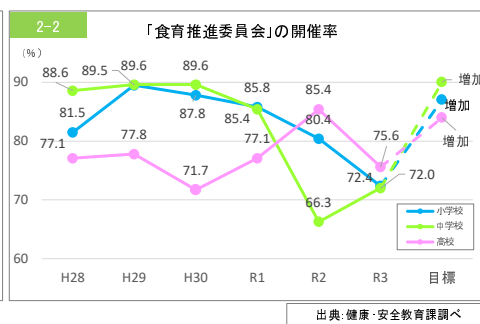
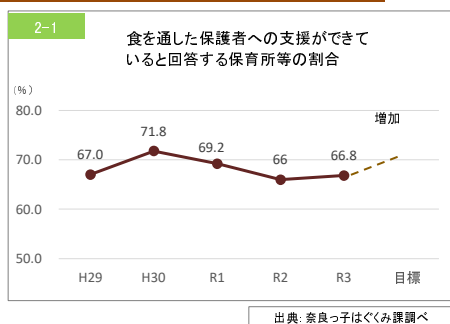
指標の状況

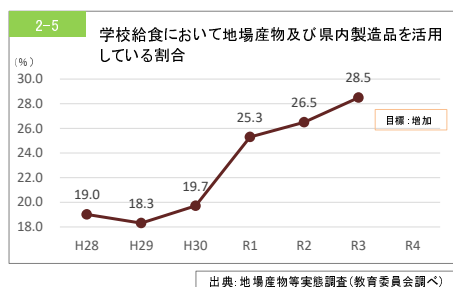
A: 目標達成しているまたは改善傾向にある B: ほとんど変化していない C: 悪くなっている

| 項目 | 目標値 | 策定時 | 直近値 | 評価* |
|------------------------------------|-----|-----------------|-------------------------------|--------|
| 2-1 食を通した保護者への支援ができていると回答する保育所等の割合 | 増加 | 67.0% | 66.8% (R3) | B |
| 2-2 「食育推進委員会」の開催率 | 増加 | 小 81.5% | 小 72.4% (R3) | C |
| | | 中 88.6% | 中 72.0% (R3) | C |
| | | 高 77.1% | 高 75.6% (R3) | C |
| 2-3 朝食を毎日食べていないと回答する児童・生徒の割合 | 減少 | 小5男子0.9% | 小5男子1.1% (R1) | C |
| | | 小5女子0.6% | 小5女子0.7% (R1) | C |
| | | 中2男子1.7% | 中2男子1.7% (R1) | B |
| | | 中2女子1.4% | 中2女子1.7% (R1) | C |
| 2-4 学校給食1食あたりの野菜使用量 | 増加 | 小 97g 中 118g | 小 94.8g (R3) 中 118.6g (R3) | B B |
| 2-5 学校給食において地場産物及び県内製造品を活用している割合 | 増加 | 19.0% | 28.5% (R3) | A |

A:1項目 B:4項目 C:6項目
*策定時の値と直近値を評価しています。

指標の推移





評価

新型コロナウイルスの拡大防止のため、集合形式の会議等の開催が制限されたことで、小・中・高における食育推進委員会の開催率が減少した。保育所における保護者への支援も横ばいである。児童、保護者への啓発機会の減少もあり、朝食の摂取率も改善していないと考えられる。

また、学校給食における野菜の使用量は、計画策定時より横ばいで、献立内容(食材料)が大きく変わっていないと考えられる。一方、学校給食における地場産物及び県内製造品を活用している割合は、計画策定時から増加している。

課題及び対策

次世代の健全な食習慣形成のためには、家庭での食育が重要であることから、保護者に対する支援や普及啓発等の取組を、保育所や学校、地域の関係機関や団体(こども食堂等)と目的を共有し、取組を実施することが必要。

令和4年度の主な取組

| 事業名 | 取組の内容 | 担当課 |
|--------------------------------------|--|-----------|
| 地域食育講座 | こども食堂等、地域で人が集まる場に出向き、こどもや地域の方々を対象に、楽しく学べる食育講座を実施する。 管理栄養士養成施設の学生による有志サークル(ヘルステーム菜良*)に委託予定 | 健康推進課 |
| 近畿大学と連携した食育の推進 | 園児、保護者を対象とした食育教室の実施(モデル園2園) | 奈良っ子はぐくみ課 |
| 食育及び給食の具体的な推進方法等について検討する会議の実施 | 市町村保育所等給食担当栄養士会議 | |
| 食育及び給食の質の向上を図るための研修会の実施 | 保育所等給食担当者研修会 | |
| 健康な食生活の育成に向けた食育計画の作成、評価、改善につながるための支援 | 保育所等における給食及び食育に関する調査、個別の支援 | 健康・安全教育課 |
| 食育推進調査の実施 | 小・中・高・特別支援学校における食育推進調査の実施 | |
| 栄養教諭・学校栄養職員研修会 | 県内の栄養教諭・学校栄養職員を対象にした研修会の実施 | 健康・安全教育課 |

*ヘルステーム菜良：県内の管理栄養士養成施設(大学)の有志学生による食育活動サークル

基本方針3 奈良県の食の魅力向上のための食育

- 施策1 県産農産物のブランド力の向上
- 施策2 販売プロモーションの強化
- 施策3 地産地消の推進
- 施策4 食文化の継承



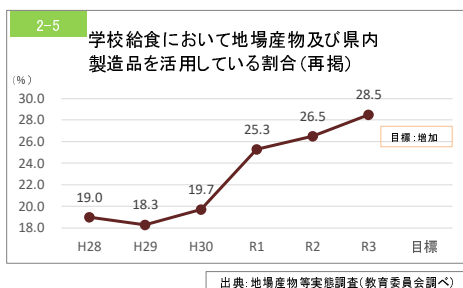
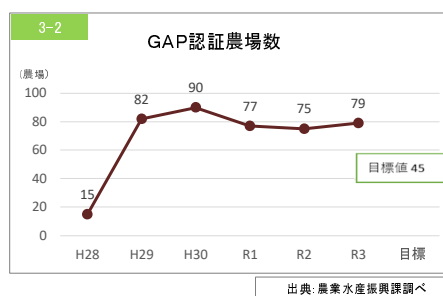
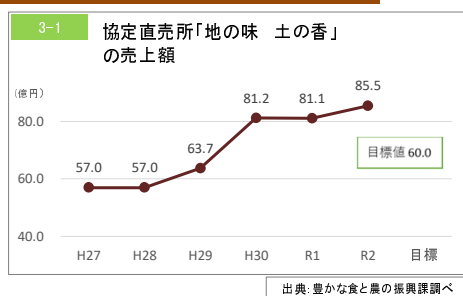
指標の状況

A: 目標達成しているまたは改善傾向にある B: ほとんど変化していない C: 悪くなっている

| | 項目 | 目標値 | 策定時 | 直近値 | 評価* |
|-----|----------------------------------|------|--------|-------------|-----|
| 3-1 | 協定直売所「地の味 土の香」の売上額 | 60億円 | 57.0億円 | 85.5億円 (R2) | A |
| 3-2 | GAP認証農場数 | 45農場 | 15農場 | 79農場 (R3) | A |
| 2-5 | 学校給食において地場産物及び県内製造品を活用している割合(再掲) | 増加 | 19.0% | 28.5% (R3) | A |

A:3項目 B:0項目 C:0項目
*策定時の値と直近値を評価しています。

指標の推移



評価

奈良県の食の魅力向上のための食育については、指標のすべてが目標を達成している。
令和2年度に、「豊かな食と農の振興条例」の制定及び「豊かな食と農の振興計画」が策定され、奈良県の食の魅力向上にむけた取組についても、「豊かな食と農の振興計画」に基づき、推進されている。

課題及び対策

今後も、豊かな食と農の振興計画と食育推進計画において、目標を共有し、連携を図りながら取組をすすめる。

令和4年度の主な取組

| 事業名等 | 内容 | 担当課 |
|-------------------------------|--|------------|
| 直売所「地の味 土の香」への支援 | 県と協定を結んだ農産物直売所の魅力向上に向けた支援 | 豊かな食と農の振興課 |
| 県内の主要な販路の拡大推進 (農産物直売所・飲食店) | 「道の駅」に開設予定の直売所の内容検討等 | 豊かな食と農の振興課 |
| | 地産地消に積極的な飲食店を「おいしい奈良産協力店」として認証 | |
| 奈良まほろば館における農産物の販売促進 | 首都圏における奈良県農産物の認知向上と販売促進 | 豊かな食と農の振興課 |
| 学校給食における県産食材の供給体制整備 | 学校給食における地場産物活用検討ワーキングチーム会議の実施 県産食材を活用した献立メニューの開発と周知 | 豊かな食と農の振興課 |

基本方針4 食を支える食環境づくり

- 施策1 食に関するリスクコミュニケーションの推進
- 施策2 食品衛生監視指導計画に基づく監視指導
- 施策3 奈良県HACCP自主衛生管理認証制度（ならハサップ）の推進
- 施策4 食（食育）の担い手の育成と活動支援
- 施策5 県と市町村の連携による食育の推進
- 施策6 多様な主体による食育推進の連携強化



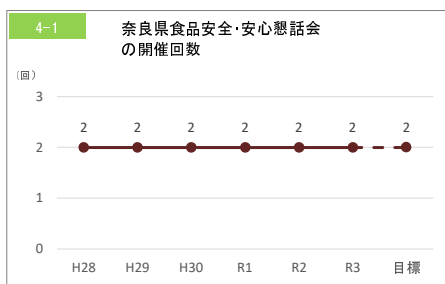
指標の状況

A: 目標達成しているまたは改善傾向にある B: ほとんど変化していない C: 悪くなっている

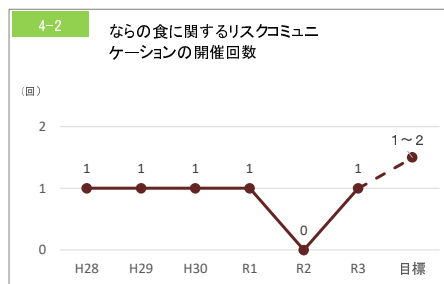
| 項目 | 目標値 | 策定時 | 直近値 | 評価* |
|-------------------------------|----------|----------|--------------|-----|
| 4-1 奈良県食品安全・安心懇話会の開催回数 | 2回 | 2回 | 2回 (R3) | A |
| 4-2 ならの食に関するリスクコミュニケーションの開催回数 | 1～2回 | 1回 | 1回 (R3) | A |
| 4-3 食品衛生監視指導計画に基づくべ監視施設数 | 12,000施設 | 13,373施設 | 3,500施設 (R3) | C |
| 4-4 食品検査検体数 | 1,063検体 | 1,105検体 | 626検体 (R3) | C |
| 4-5 ならハサップ認証施設数 | 25施設 | 5施設 | 58施設 (R3) | A |
| 4-6 食育ボランティア数 | 増加 | 3,428人 | 4,661人 (R3) | A |
| 4-7 新規就農者数/年 | 増加 | 52人 | 48人 (R3) | B |
| 4-8 食育推進計画策定市町村数 | 39市町村 | 32市町村 | 39市町村 (R3) | A |
| * やさしおベジ増しプロジェクト参加協力店数 | 増加 | 50店 | 52店 (R3) | A |

A:6項目 B:1項目 C:2項目
*策定時の値と直近値を評価しています。

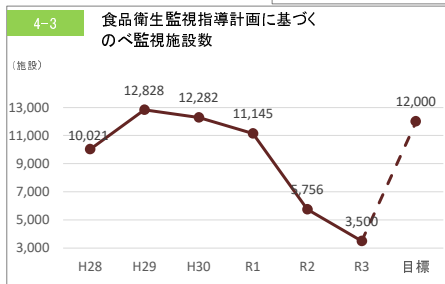
指標の推移



出典:消費・生活安全課調べ

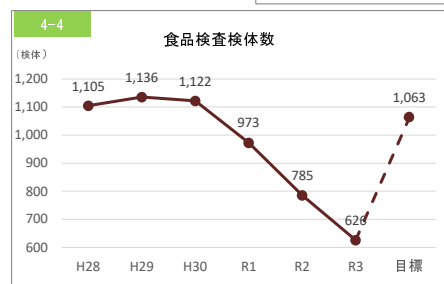


出典:消費・生活安全課調べ



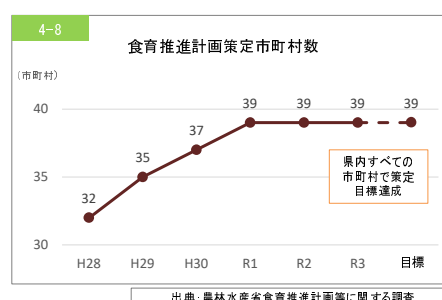
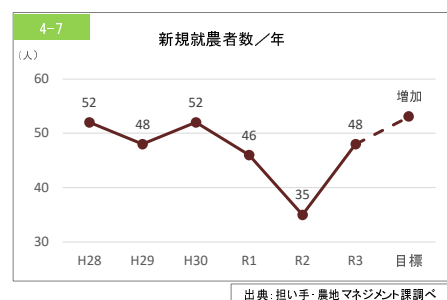
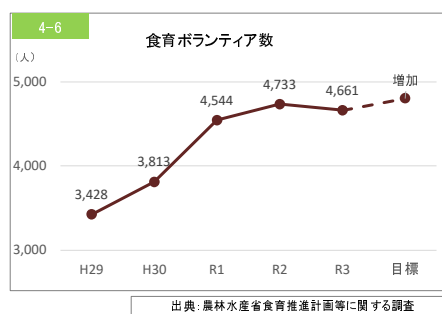
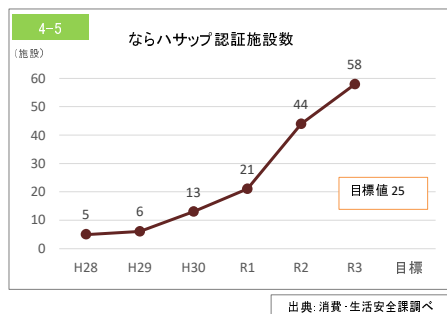
※毎年、前年度の実績や体制等を考慮し目標数を設定

出典:消費・生活安全課調べ



※毎年、前年度の実績や体制等を考慮し目標数を設定

出典:消費・生活安全課調べ



*「やさしおベジ増しプロジェクト参加協力店舗数」は、事業の見直しに伴い「まほろば元気100菜プロジェクト推進店の数」から項目を変更

評価

食の安全安心に関する各種の取組は、「食の安全・安心計画」においても推進されているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、監査指導等の件数が少なくなった。

食育ボランティアの数や市町村食育推進計画の策定数等は、目標を達成している。

課題及び対策

食の安全・安心に関する取組については、引き続き、食の安全・安心計画と目標を共有し、連携を図りながら取組をすすめる。

「市町村食育推進計画」については、すべての市町村で策定されているが、適切な推進については、市町村ごとの健康課題や実施体制等を検証したうえで、助言指導を行うことが必要。

令和4年度の主な取組

| 事業名 | 取組の内容 | 担当課 |
|---------------------|---|------------|
| 食品安全・安心懇話会の開催 | 食品の安全・安心の確保に向け、生産・加工・流通等の食品に関する事業者、学識経験者及び消費者代表と行政各課が意見交換を行う。 | 消費・生活安全課 |
| なら食に関するリスクコミュニケーション | 県民との対話や意見交換を通して、食に関するリスクなどの情報を共有し意思の疎通を図るために講演会を開催する。 | 消費・生活安全課 |
| 食品衛生監視指導計画に基づく監視指導 | 食品関係事業者への立ち入り、食中毒防止対策や食品表示の監視指導を行うとともに、収去検査を行う。 | 消費・生活安全課 |
| 特定給食施設指導等 | 食育推進、衛生管理、危機管理、栄養管理等の向上を目的に、研修会の開催や巡回指導を行う。 | 健康推進課・各保健所 |
| 保健所における食育推進会議 | 市町村食育推進計画の評価及び取組支援等を行う。 | 健康推進課・各保健所 |
| 奈良県食育推進会議 | 奈良県食育推進計画の評価、取組等に関する協議を行う。 | 健康推進課 |